


受賞者氏名	赤松 佳珠子	
所属	デザイン工学部建築学科	
受賞年月日	①2021年7月4日 ②2021年10月20日 ③2021年11月20日 ④2021年12月7日 ⑤2021年12月9日 ⑥2022年2月19日	
国内・国外	全て国内	
授与機関等名称	①公益社団法人日本建築家協会・東北支部 ②公益財団法人日本デザイン振興会 ③公益社団法人日本建築士会連合会 ④一般社団法人日本建築士事務所協会連合会 ⑤一般社団法人日本建設業連合会 ⑥公益社団法人日本建築家協会・中国支部	
受賞名	①第1回 JIA 東北建築大賞 2020 ②2021年度グッドデザイン賞 グッド・デザインベスト 100 ③第1回日本建築士会連合会建築作品賞・奨励賞 ④日事連建築賞・奨励賞 ⑤第62回 BCS 賞 ⑥第13回 JIA 中国建築大賞 2021・大賞(一般建築部門)	

①第1回 JIA 東北建築大賞 2020

**受賞対象作品:山元町役場**

**※作品詳細については別紙**

■賞概要

本賞は、東北6県に造られた建築(専用住宅・併用住宅・戸建住宅・集合住宅以外の建築)を対象とし、デザイン・性能・工法等において、東北の景観と環境に根ざした優れた建築を生み出した設計者と施主・施工者に対して贈る賞です。

■審査講評

第1回 JIA 東北建築大賞の2次審査で対象となった建築は、東日本大震災からの復興に関わる建物・プロジェクトで、設計期間や設計料、建築資材不足、職人不足などの制約を受ける建物も多く、復興という制度上の厳しい制約を受ける中で、ほとんどボランティア的な状況で計画されたプロジェクトもありました。現地で実際に建物・プロジェクトを見てそれに関わった方々からのエピソードをお聞きすると設計当初の設計・復興に対する思いを強く感じることができました。今回の現地審査を終えて、山本理顕審査員長の「建築家たちはなんとか復興の手助けをしたいと、十分な費用もなくこんなにも労苦を強いられているのに、ほとんど孤立無援状態になっている。その様な困難な状況の中で建築家たちは献身的な努力をされた。全員に大賞を贈りたい。」との意見に、同じく審査をなさった渡邊研司審査員そして随行した進藤支部長他 JIA 東北支部のメンバーも賛同し、2次審査に残った10作品全てを大賞とする事となりました。

受賞(研究)内容詳細

②2021 年度グッドデザイン賞 グッド・デザインベスト 100

**受賞対象作品:ROPPOGI TERRACE**

**※作品詳細については別紙**

■賞概要

グッドデザイン賞はデザインによって私たちの暮らしや社会をより良くしていくための活動。1957年の開始以来、シンボルマークの「Gマーク」とともに広く親しまれてきた。グッドデザイン賞は、製品・建築・ソフトウェア・システム・サービス等、私たちを取り巻くさまざまなものごとに贈られる。形あるなしにかかわらず、人が何らかの理想や目的を果たすために築いたものごとをデザインととらえ、その質を評価・懸賞しています。

■審査講評(原田真宏/芦沢啓治/永山祐子/吉田愛)

六本木の傾斜地に立つオフィスビルの計画。しかし、それはキッチンやシャワー室なども付属していて、いわゆるオフィスらしくはなく集合住宅のようにも見える。それは「労働」と「生活」が切り離されてきた過去の建築用途区分を超えて、在宅ワークやリビングオフィスの一般化など「労働」と「生活」が混在する現在のライフスタイルに即した新しい用途・ビルディングタイプの提案であるかのようだ。斜面地なりに傾斜したスラブに沿ってスキップしたフロアは、下方の屋根並と、上方の公園の緑や空を居住空間へと接続して、床面積以上の空間的な広がりを得ており、同時に公園からの視線を遮りプライバシーを守っている。敷地環境に応じた斜めスラブという形式は、単なる効率的な労働の箱としてのオフィス空間ではなく、労働＝生活の場として豊かな空間を実現するために見出されたものである。これからの時代の働き・生きる場を指し示す建築であり、高く評価した。

### ③第1回日本建築士会連合会建築作品賞・奨励賞

#### 受賞対象作品:アストラムライン新白島駅

#### ※作品詳細については別紙

##### ■賞概要

日本各地の建築士による、気候風土や地域の課題に真摯に向き合い、まちづくりや地域づくりに貢献・寄与している建築作品を募る。その中から、特に創意と工夫に満ち、地域の建築への広がりが期待される建築作品の設計者である建築士を顕彰する。

##### ■審査講評(菅順二)

アストラムライン新白島駅にアプローチしていくと片側3車線の国道の上下車道に挟まれて、子どもたちがジブリアニメのオームのようだというユーモラスな姿が見えてくる。この駅は、アストラムラインと山陽本線の交差するところに新設したもので、国道の中州の持つ敷地の線形と、JR高架下から地上走行になるアストラムラインの地下軌道が地上付近に浮上してくるところでJRの高架駅から乗り換えるという立地条件をうまく造形に昇華している。25年前に将来の駅新設に備えて駅のプラットフォームの間隔をとって埋設された地下鉄軌道のボックスカルバートの間を掘削し、そこにU字型土木構造体を嵌め込み、土圧を受け止めるとともにU字型構造体の底を駅のプラットフォームとしている。その上に9mm厚のリブ付き鋼板の外部側に防水とモルタルを施した厚さ105-200mmの薄い円筒シェルを掛け渡している。地下の土木構造体の厚みと重量感を車両に乗り込むために開けた横穴の断面に見取り、頭上の軽やかなシェルとそこに穿った円形の天窗から注ぐ自然光を見上げると、この建築の面白さは土木的構造体の上に建築的構造スケールを対比的に際立たせている点にあることを実感する。土木と建築の滑らかな接点に計画の困難さが凝縮されている。

### ④日事連建築賞・奨励賞

#### ・受賞対象作品:山元町役場

#### ※作品詳細については別紙

##### ■賞概要

本表彰は、すぐれた建築作品を設計した建築士事務所を表彰することにより建築士事務所の資質の向上に資することを目的とする。建築士事務所が一般的に手がけている中小規模の建築作品(新築にかかわらず増改築、改修等を含む)で、平成30年4月1日から令和2年3月31日までの期間に竣工(竣工の日は検査済証の交付日とする)したもので、竣工後の増改築等も含め法令が遵守され、構造上、防災上の安全性を備えた建築物とし、次の部門毎に募集する。

- ①一般建築部門(延面積が1,000㎡を超え10,000㎡以下の建築物)
- ②小規模建築部門(延面積が1,000㎡以下の建築物:戸建住宅を含む)

**受賞対象作品：渋谷ストリーム**

**※作品詳細については別紙**

■賞概要

BCS賞は、毎年、優良な建築物を表彰することにより、建築に係わる事業企画の質及び計画・設計、施工、環境、維持管理その他建築技術の進歩向上を図り、もって良好な建築資産を創出し、わが国の文化の進展と地球環境の保全に寄与することを目的とする。

■審査講評(竹内徹/堀部安嗣/大西正修)

次世代に本当に必要とされる再開発とは、そのことを考えさせられる計画である。敷地は旧東急東横線渋谷駅跡地とその周辺で、昭和時代の無数の計画により都市の動線やインフラなどがひしめき合い混沌としていた場所であるが、その姿に愛着とかけがえのない思い出を持っている人々も数多くいただろう。時代や動線や人の心理が複雑に絡み合った場所に、商業施設、オフィス、ホール、ホテルなど様々な用途のものを複合させて大規模な開発を行う時、現状の複雑さをリセットして単純化し、さらにその混沌さを漂白してゆく開発計画が今までは多かったように思う。結果、リセットによって一見現代的な新しさが生まれたように感じるが、人々の記憶や動きを破壊してつくられたものは意外と賞味期限が早く、魅力が持続しないことにも私たちは気づき始めている。何より漂白された再開発は「日本中どこに行っても同じ顔」になる危険性を孕んでいる。

そんな中、渋谷ストリームはインフラを整備すること、新たな人の流れを生み出すこと、エネルギーを連携させて環境性能を高めること、地域コミュニティを醸成させること、地域の防災拠点となることといった今日の大規模複合施設や再開発に求められることに真摯に向き合い、建築的な結果を出しながらも、どこか従来の再開発に見られるような淡泊さとよそよそしさを感じることがない。親しまれたホームのカマボコ屋根を再構築したり、独特な曲線を描いていた線路のカーブをそのまま商店街の通路に利用したりといったことも、もちろん記憶の継承に一役買っているように思うが、決して物理的な「思い出の品」や「記号的なもの」を残すだけではこういうレベルまでには到達できなかっただろう。

この建物には大小、縦横、様々なヴォイドが効果的にかつ注意深く空けられている。そのヴォイドからは視覚的なものはもちろんであるが、匂いや音や風や気配、さらには歴史の流れのようなものが伝わってくる。それらはこの場所にずっと変わらずあり続け蓄積された人々の思いや愛着のようなものを表しているようだ。またその時間を内包した風の流れにより、この場所の今までの主役が脇役になり、脇役が主役になるような感覚を人々に抱かせる。昭和の頃はこの場所では脇役だった渋谷川が時を超えて大昔の時のようにこの場所の主役となった。昭和の頃は主役だった電車とホームが今は脇役となり、代わって人の居場所がこの場所の主役になった。竣工時からこのように複雑で混沌とした情感が空間にまわりついている状態を創出することは、建築主、設計者、施工者の気持ちが一体とならなければできなかったことだろう。

具体的な「もの」を通してではなく人々の「五感、六感」に働きかける気配によって記憶を再構成しながら継承させることに成功していることに高い評価を与えたい。

**受賞対象作品:アストラムライン新白島駅**

**※作品詳細については別紙**

■賞概要

建築家は、自らの業務を通じて先人が築いてきた社会的文化的な資産を継承発展させ、地球環境をまもり安全で安心できる快適な生活と文化の形成に貢献しなければなりません。JIA 中国支部では、上記 JIA の建築家憲章の理念にもとづき、中国 5 県に作られた建築を顕彰する目的で、JIA 中国建築大賞を創設しています。本賞は、すぐれた建築デザインや建築文化や環境形成に寄与した建築作品を設計した建築家を顕彰いたします。

■審査講評(村重保則)

国道 54 号線の中央グリーンベルトに隆起した、一見するとシンプルな円筒状の建築。複雑に絡む地階と地上階の動線、土木と建築、道路を含め、円筒の内外において風景までを一体化していることに、いたく感心した。円筒シェル内部からの大らかなワンルーム空間には自然光が充満し、地階にいながら安心感とやさしさを感じるほど。視認できるシンプルさの背後には、設計者、発注者、道路管理者、土木技術者、施工者たちの並々ならぬ意志と分野間の統合があり、なにより、軌道とプラットフォームの間には大きな土木構築の存在がある、はずなのだが、できあがった建築はそのようなことを微塵も感じさせずに、愛らしく佇んでいる。作者の卓越した造形力がその風景のあり方に一石を投じた建築である。